

# いろいろな勾玉

～勾玉の魅力を再発見！～



太田市立太田中学校 1年

佐々木璃和

# 1 きっかけ

小学生の頃、島根県に家族と旅行に行った際、勾玉作り体験をしたことがある。それ以来、勾玉が好きだったため、今回この「東国文化自由研究」で勾玉について調査することにした。調査を進めていくにあたって、少し勾玉についてインターネットで調べてみると勾玉にはいろいろな形、いろいろな色のものがあることがわかり、自分が知らないことがもっとたくさんありそうだと感じた。このことから、勾玉の意味や種類などいろいろな観点から調べ、勾玉の魅力をもっと深く知りたと思った。また、この機会に、島根県での勾玉作り体験で作った勾玉についての思い出もよりよいものにしたいと思った。

# 2 調査

## 調査方法

- 1：インターネットや本などで調べる。
- 2：詳しいことはインタビューでお話を伺う。
  - ・「埼玉県立さきたま史跡の博物館」の学芸員の方（博物館に行き、直接お話を伺いました。）
  - ・「群馬県立歴史博物館」の学芸員の方（博物館には行きましたが、学芸員の方がいらっしゃらなかったため、後日、FAXでお話を伺いました。）

↓埼玉県立さきたま史跡の博物館（左）と勾玉（右）



↓群馬県立歴史博物館（第103回企画展「古墳大国群馬へのあゆみ」）（左）と勾玉（右）



## 調査内容

### 1：勾玉とは

古墳時代の玉類としては、もっとも有名な形。縄文時代の牙製勾玉以来の歴史を持つ。弥生～古墳時代にかけて他の管玉などと組み合わせて使われ、頭飾り、首飾り、手飾りの各部分に用いられていた。

(他の玉類には管玉、丸玉・小玉、算盤玉、切子玉、棗玉、白玉、平玉、垂玉、三輪玉などがある。)

#### 勾玉の意味

- ・ 当時の方が身に着ける装飾として用いられた。
- ・ 古墳におさめられたものは、葬られた人の身分や位を表すものだったと考えられる。
- ・ 勾玉の穴は自分を生かしてくれる祖先と繋がりを持つことにより、我が身に降りかかる邪気・邪霊から身を守り、その恩恵を受けたとされている。

#### 勾玉の形の由来の説

縄文時代には動物の牙や骨を素材にした玉が盛んに作られる。勾玉の形は、縄文時代に誕生した牙玉がルーツという説が有力。また、勾玉の頭の部分が日（太陽）を表し、尾の部分が月を表している。この太陽と月が重なりあった形は大いなる宇宙を崇拝していたとされる。他にもいろいろな説がある。

- ・ 魚の形を起源にした説  
魚の形に似ているため。
- ・ 腎臓の形を模した説  
腎臓を取り出し乾燥させると深い緑色の勾玉のような形になるため。
- ・ 胎児の形を模した説  
頭が大きく足のほうが小さい胎児の形を模した。生命の始まりを意味する胎児は若さや力の象徴、また、胎児の形は人や獣に魂が宿る「宿りの形」とされていた。そのため呪術的な力が宿るとされていた。
- ・ 釣り針の形を起源にした説  
勾がった形が釣り針の形に似ているため。
- ・ 動物の牙を真似した説  
獣類の牙の威力を恐れていたことから、それを身につけることによってお守りにしたとされる。牙に穴を開けた物を模倣し勾玉になったと言われる。
- ・ 月の形を模したとする説  
三日月の形を模した。月は満ち欠けを繰り返すことから生命を再生する力があるとされ、古来より月を神様として崇めていたことから、月の形を身に着けるようになったと言われる。
- ・ 魂の姿を模した説  
勾玉に神様や人の魂が宿ると考えられていたため。

・巴形を模したとする説

日本の伝統的な文様の一つである巴形を模した。陰陽を表す形、屋根瓦の模様、家紋などに見られる巴紋を模した。

・玦状耳飾りの転用説

縄文時代にC字形の円環上の耳飾りが作られており、これが半分に割れたものを再利用した形が勾玉の祖形と言われる。

他の説もあるらしい。ルーツは諸説あり、はっきりとは分かっていない。

## 2：材質

古墳時代の勾玉の材質は、大きく分けて、石／ガラス／金属／土に分けられる。

弥生時代

天河石



時期：弥生時代前期

産地：朝鮮半島のみ

(日本列島では産出しない)

特徴：天河石製勾玉は朝鮮半島で製作され、弥生時代前期に限られた時期に、北部九州と山口県の遺跡でのみ出土。

硬質緑色凝灰岩

時期：弥生時代中期後半のみ

産地：日本海沿岸部（石川・福井・兵庫・鳥取・島根の各県）

古墳時代

〈石〉

ヒスイ（翡翠）



時期：弥生時代前期～古墳時代中期

産地：新潟県（新潟県西部の姫川・青梅川流域）、岡山県、兵庫県、鳥取県など

色：緑色～緑白色

硬度：6.5～7

比重：3.3～3.5

特徴：ヒスイ輝石を主成分とする岩石で、蛇文岩中に塊状に産出する。新潟県青海川・姫川の産地が有名。

碧玉



時期：古墳時代前期後半～古墳時代後期

産地：日本海沿岸部（島根、石川、兵庫の各県）、島根県花仙山産のものが有名。

色：濃緑色ほか

硬度：7

比重：2.7

特徴：細結晶性の石英の一種で多量の酸化鉄で着色される。弥生～古代の玉素材として多用される。

### メノウ (瑪瑙)



時期：古墳時代前期後半～古墳時代後期

産地：島根県、石川県、茨城県

色：赤橙色～白色

硬度：7

比重：2.7

特徴：細結晶性の石英の一種で白色～赤色の縞模様が特徴。弥生～古代の玉素材として多用される。

### 水晶



時期：古墳時代前期後半～古墳時代後期

産地：日本列島各地

色：透明

硬度：7

比重：2.7

特徴：石英のうち、六角錐状、双葉状などの結晶体で透明なもの。弥生～古代に玉素材として多用される。

### コハク (琥珀)



※↑リメイク

時期：弥生時代終末～古墳時代後期

産地：千葉県犬吠埼、岩手県久慈（わずかに岐阜県でも産出）

出土：コハク製勾玉の出土古墳は青森県から鹿児島県まで確認。千葉県や茨城県などで多い（産出地に近い）。

色：黄色～赤褐色

比重：1.1

特徴：松脂などの樹脂が化石化したもの。埋れ木などの亜炭に伴って産出する。縄文～古代のたまに使用される。柔らかく加工しやすい。

弥生時代には、コハク製勾玉は北海道で流通。本州ではわずかに房総半島（原産地に近い）で出土。古墳時代に入ると全国的に流通。製作は岩手県内や千葉県内（産地に近い）で盛んに行われたが、古墳時代中期には奈良県曽我遺跡でも作られている。この遺跡では岩手県産と千葉県産が確認されている。

### 滑石



時期：弥生時代後期、古墳時代後期

産地：日本列島各地

色：灰色～白色

硬度：1

比重：2.8

特徴：考古学で使用する「滑石」は、鉱物学上の滑石、蛇紋岩、蠟石、泥岩、頁岩、緑泥片岩の総称である。

軟質緑色凝灰岩

時期：古墳時代中期のみ

産地：日本海沿岸部（石川・福井・兵庫・鳥取・島根の各県）

〈ガラス〉



時期：弥生時代中期～古墳時代後期

産地：原料は海外から入手（大陸製のものを朝鮮半島経由で入手か）し、日本列島内で加工。

色：青色、緑色、赤色、黄色など

比重：2.5

特徴：珪砂（ $\text{SiO}_2$ ）に融点をさげるためにソーダ灰、鉛丹、木炭などを調合して製作する。生産地や時代によって融剤による微量成分が異なる。古墳時代中期では玉類全体のうち、ガラス製と滑石製で9割前後を占める。

〈金属〉



時期：古墳時代中期～後期

特徴：金製、銀製、金銅製のものがある。  
とても希少。古墳時代中期後半に畿内中枢で生産がはじまる。

〈土〉



時期：弥生時代後期、古墳時代後期

古墳時代中期  
勾玉の材質の中心  
ヒスイ製 ⇨

- ・メノウ製や碧玉製への変化
- ・滑石製の増加
- ・ガラス製…様々な色のもが見られる。
- ・金属製…数は多くないが確認されている（金や銀など）。

バラエティーに富むようになる。

古墳時代後期

中期と同じような傾向が続く。

- ・滑石製の減少
- ・群衆墳（小型の古墳の群）が多く確認され、副葬するための需要が高まった。  
→碧玉、メノウ、水晶製…引き続き各古墳に副葬

### 3：形

勾玉の形は、旧石器時代末～縄文時代の歯牙製垂飾（イノシシなどの動物の歯に孔をあけて作られたアクセサリー、湾曲した形）にルーツがあるといわれる。

縄文時代

早期末～前期：滑石製の「ノ」字形（中期に続く）

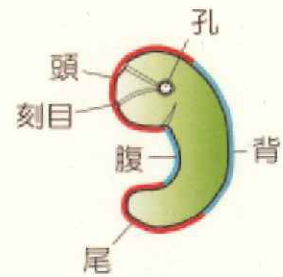
後期：滑石、土製の獣形

晩期：ヒスイ製の獣形も確認

弥生時代

縄文系…縄文時代の特徴を受け継ぐ。獣形、緒締形（獣形が変化）。弥生系…のちの古墳時代に続く。牙形、半球形、定形。

分名称



↑勾玉の部

獣形勾玉



時期：縄文時代後・晩期～弥生時代中期の遺跡で出土。

出土：北部九州が中心。

特徴：勾玉の腹に突起がついている。

緒締形勾玉



特徴：腹面から側面にかけて溝状のえぐれがある。

半球形



登場時期：弥生中期前葉

分布：東日本に多い。

特徴：環（環の一部が切れている形をした玉器）を半分にしたような形。

古墳時代

定形勾玉



※↑「埼玉県立さきたま史跡の博物館」の  
国宝 ヒスイ勾玉

登場時期：弥生前期末～中期前葉

分布：九州に多い。

特徴：古墳時代の勾玉は弥生時代の定形勾玉が続いたものを中心。

コ字型勾玉



時期：古墳時代後期

特徴：メノウ製が多く見られる。

尾と頭が角張って曲がる形。

### 丁字頭勾玉



時期：古墳時代前期～中期前半

特徴：定形勾玉の内、孔から頂部にかけて数条の刻線のあるものを丁字頭勾玉と呼ぶ。弥生時代のものについて、特に勾玉頭部の刻み目が紐をかけたような表現に見えることから、「何かを縛りこめることへの呪術性」を指摘する研究者もいるらしい。

### 子持勾玉



時期：古墳時代中期～後期

特徴：大型の勾玉の表面に勾玉状の小さな突起がある。滑石や碧玉で作られる。集落遺跡から出土することが多く、アクセサリとして古墳に副葬されるヒスイ製の勾玉とは性格が異なる。特異な形態から、玉のもつ霊力と増殖に関連する呪術に使われたのではないかと考えられている。主に祭祀で使われる。

### 出雲型勾玉



時期：約2600年前（弥生時代）から出雲に伝わる形と言われる。

特徴：尾がふっくらとして丸みを帯びており、最も美しく均整のとれた形。「思いを込めやすく抜けない形」とされている。出雲大社の祭祀を司る役職「出雲国造」新任の際、皇室への出雲の玉献上の儀式に使われる玉にも使用されている。

歴史：古墳時代…

玉造温泉で作られた出雲型勾玉は献上品、埴輪に多く見られるようになり、一般の装飾品としても普及し始める。

古墳時代後期…

玉造温泉では勾玉作りを全国でほぼ独占していたと言われている。

### 合わせ勾玉



時期：古墳時代前期（4世紀）

特徴：ヒスイ製。奈良県出土。

世界中で左の画像の1点しかない。二つの玉が合わさったように見えるが一石からすべてを作り出している。

他の形もあるらしい。



### 3 まとめ

#### 1：勾玉の意味、説について

勾玉は装飾品として使用され、身分や位を表したり、祖先との繋がりを持ったりする意味もあると分かった。

勾玉の形の由来にはいろいろな説があり、はっきりとは分かっていないが、縄文時代に誕生した牙玉がルーツという説が有力だそうだ。

#### 2：勾玉の材質について

勾玉の材質にはいろいろな種類があることが分かった。海外から入手されていた材質もあるが、日本列島各地でいろいろな材質が産出されていた。学芸員の方によると、材料の産出地近くで玉作りを行っていることが多いが、遠隔地から材料を取り寄せて製作を行っている例もあるそうだ。

時代・時期によって勾玉に使用される材質は変化し、時代・時期が進むごとにその種類は増えていった。バリエーションが豊富になっていったことから、時代が進むごとに装飾品としての需要が高まっていったのではないかと考えられる。しかし、これはあくまで私が考えたことであるため、今後詳しいことを調べてみたい。

#### 3：勾玉の形について

勾玉の形にもいろいろな種類があることが分かった。時代・時期ごとに勾玉の形も変化していった。古墳時代の勾玉には新たに生まれた形もあるが、弥生時代に生まれて古墳時代に続く「弥生系」もある。また、勾玉の形にはちゃんと意味が込められていたと考えられているものもあるそうだ。

調べていくと、勾玉は形によって使用された材質がある程度決まっているような傾向があるようにも思える形もあった。このことから、それぞれの形によって作りやすい材質が決まっていたのではないかと考えられる。また、学芸員の方によると特定の形が特定の出土地域に偏るような傾向は見いだせないのだそうだ。このことから、特定の勾玉を作る際に特定の材質を使用するのだとしたとき、その材質の産出地と離れた場所にいたら、その場所に取り寄せられた材質の中には特定の勾玉を作るための特定の材料が多いのではないかと考えられる。これらもあくまで私が考えたことであるため、今後詳しいことを調べてみたい。

### 4 感想

勾玉の形の由来の説は知らなかったものばかりだったが、どれも言われてみれば納得できて面白かった。はっきりとは分かっていないそうなので、もう少し詳しく調べてみたい。

勾玉といっても材質、形の面からみてもいろいろな種類があることが分かってとても面白かった。材質については、有名なのはヒスイ製だが、それ以外にも滑石製や土製などがあり、さらには金属製のとても美しいものもあって調べているときにも感動してしまった。金属製の勾玉は貴重だそうなので、一度実際に見てみたい。ガラス製の勾玉もいろいろな色があってきれいだった。形については、どれも個性的な形だったが、特に子持勾玉が独特すぎて驚いた。今回使用させていただいた画像の子持勾玉は私の中ではシンプルなほうで、調べていると、もっと複雑な形のものもあってどのようにしたらこんな勾玉が作れるのか不思議に思った。勾玉の形は私が調べた以外にもまだまだ種類があるようなので、面白い形を見つけてみたい。

勾玉は、私も旅行で行ったことのある出雲の玉造温泉が有名だそうで出雲型勾玉なんてものもあり、どれほど勾玉作りが盛んだったのかが分かった。新たな情報も手に入れられたので、もう一度出雲に行ってみよう。

また、わざわざ遠隔地や海外から取り寄せていた材質もあることが分かって、そんなに広範囲で勾玉作りが広まっていたのだと驚いた。玉作りにはヤマト王権の力が影響していた時期もあるそうなので、勾玉を含め、玉とヤマト王権との関係についても調べてみたい。

今回は勾玉の意味、種類について調べて、今までは勾玉はただの装飾品で同じようなものばかりだと思っていたけれど、いろいろな意味が込められていて、時代によってたくさんのバリエーションがあることが分かった。昔のおしゃれはこんなにも素敵なものだったのだ、と意外に思い、知っていたつもりの勾玉でもたくさんの魅力を再発見できた。まだまだ勾玉の魅力について知らないことがたくさんあるので、今後は勾玉について、まだ調べていないことを調べ、さらに勾玉以外の他の玉類についても調べていきたい。

## 5 参考文献

- ・公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 発掘情報館 体験学習室  
[http://www.gunmaibun.org/excavation/learning-info/learning/learning02\\_1.html](http://www.gunmaibun.org/excavation/learning-info/learning/learning02_1.html)
  - ・玉 ―古代を彩る至宝― 編集 古代歴史文化協議会 発行 ハーベスト出版
  - ・フォーラム 日本海を行き交う弥生の宝石in小松-小松市  
[https://www.city.komatsu.lg.jp/material/files/group/43/tama\\_forum\\_hp.pdf](https://www.city.komatsu.lg.jp/material/files/group/43/tama_forum_hp.pdf)
  - ・《研究ノート》広島県における古墳出土玉類とその組成 岸本晴菜  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/427302.pdf>
  - ・ミュージアムコレクション16 まつりに使われた子持勾玉  
<http://www.town.tawaramoto.nara.jp/material/files/group/34/27056634.pdf>
  - ・文化庁広報誌 ぶんかる 文化財のトピワ 特集展示「しきしまの大和へ-奈良大発掘-」  
[https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/bunkazai/bunkazai\\_077.html](https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/bunkazai/bunkazai_077.html)
  - ・アナヒータスタイル 日本のこころ『出雲型勾玉』 <https://anahita-style.com/feature/66691/>
  - ・江戸東京博物館 企画展「玉―古代を彩る至宝―」
  - ・金沢市公式ホームページ いいね金沢  
<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/11104/bunkazaimain/shiteibunkazai/yuukeibijutsu/juukeimagatama.html>
  - ・國學院大學 國學院大學メディア  
神聖視された「勾玉」の実態 人々がその貴重さに魅せられたわけ <https://www.kokugakuin.ac.jp/article/151018>
- 画像
- ・東京国立博物館 1089ブログ 特集陳列「本州最西端の弥生文化―響灘と山口・綾羅木郷遺跡―」の見どころ(魅ドコロ…) 3―交流トピック編  
<https://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2014/02/21/%E7%B6%BE%E7%BE%85%E6%9C%A8%E9%83%B73/>  
(天石製勾玉)
  - ・毎日新聞 2020/8/6 日吉ヶ丘遺跡 ヒスイの勾玉が出土 権力者と関連か 与謝野 /京都  
<https://mainichi.jp/articles/20200806/dd/k26/040/327000c> (ヒスイ製勾玉)
  - ・2020/3/11 海を渡った装身具、春季企画展開催 名護屋城博物館 /佐賀  
<https://mainichi.jp/articles/20200311/dd/k41/040/220000c> (獣形勾玉、緒締形勾玉)
  - ・文化遺産オンライン <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/419468> (碧玉製勾玉)
  - ・宮内庁 書陵部所蔵資料目録・画像公開システム  
<https://shoryobu.kunaicho.go.jp/Ryobo/Detail/7002001810000> (メノウ製勾玉)
  - ・久慈琥珀博物館 <http://www.kuji.co.jp/museum> (コハク製勾玉)
  - ・MIHO MUSEUM <https://www.miho.jp/booth/html/artcon/00005300.htm> (ガラス製勾玉)
  - ・産経フォト2018.10.19 14県の古代の玉、一堂に 1万2千点、東京で企画展  
<https://www.sankei.com/photo/story/news/181019/sty1810190007-n1.html> (金属製勾玉)
  - ・東京国立博物館 画像検索 <https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/C0091709> (土製勾玉)
  - ・長野市文化財データベース 頭で感じる文化財 デジタル図鑑  
<http://bunkazai-nagano.jp/modules/dbsearch/page4789.html> (半球形勾玉)
  - ・山梨県埋蔵文化センター  
<http://bunkazai-nagano.jp/modules/dbsearch/page2873.html> (丁字頭勾玉)
  - ・山梨県埋蔵文化センター  
遺跡トピックスNo.0240平林2号墳 <https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/topics/201-300/0240.html> (コ字型勾玉)
  - ・九州国立博物館 特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」 [https://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition\\_s46.html](https://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition_s46.html) (子持勾玉)
  - ・いずろまがたまの里 伝承館 <https://www.magatama-sato.com/sp/about/> (出雲型勾玉)
  - ・島根県立古代出雲歴史博物館 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展  
しきしまの大和へ 奈良大発掘スペシャル <https://www.izm.ed.jp/cms/event.php?mode=yoyakuadd&id=1864> (合わせ勾玉)
  - ・ひろしまWEB博物館 企画展示室 WEB博物館企画展第3弾  
おしゃれの考古学～出土したアクセサリー展～<http://www.mogurin.or.jp/museum/project/h23/accessory/> (勾玉の部分名称)

### 表紙

群馬県立歴史博物館 第103回企画展「古墳大國群馬へのあゆみ」 ヒスイ製勾玉、ガラス製勾玉  
<https://grekisi.pref.gunma.jp/>

### 訪問先

- ・埼玉県立さきたま史跡の博物館 (8月14日)
  - ・群馬県立歴史博物館 (8月11日)
- FAX 送信日: 8月12日 受信日: 8月17日

ご協力してくださった方々、誠にありがとうございました。